

[成果情報名] 作業道を備えた高うね栽培早生温州の梅雨明け後シートマルチによる高品質果実の高収量安定生産

[要約] 作業道を備えた「原口早生」の高うね栽培園で、梅雨明け後樹冠下に透湿性シートマルチをすると、梅雨入り前に被覆するのと同等の高糖度果実が生産でき、毎年成園なみの高収量が維持できる。

[キーワード] 作業道、高うね、シートマルチ、糖度、収量

[担当] 長崎果試・常緑果樹科

[連絡先] 0957-55-8740 電子メールjiro@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

作業道を備えた改植園では、圃場に対する樹冠占有面積率が低く、シートマルチをすると糖度は向上するが、過度の水分ストレスで樹勢が落ちると、翌年の収量に影響を及ぼす。そこで高品質果実の成園並み収量を確保するためシートマルチ被覆時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1．収穫時の果実糖度は、マルチ区が無マルチ区より約2.9高く、マルチ区の中では梅雨明け後被覆区が高い（表1）。
- 2．マルチ区の階級LMSの合計比率は約74%で無マルチ区の121%と、商品化率が高くなる（表2）。
- 3．3カ年の平均収量は、マルチの早期化により717kg減少する。梅雨明け後マルチ区は3.9tと成園並みの収量がある（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．供試樹は樹齢10年生以上で、うね内の樹冠占有率は100%程度を占めており、それ以下の場合は収量が低下すると思われる。
- 2．樹冠下マルチ栽培で糖度が上がりにくい園では、全園マルチを行うか、作業道とうねの境界部に垂直に止水シートを埋設し、糖度向上を図る。

[具体的データ]

栽培概要

「原口早生」

2000年当時：樹齢10年生

167本/10a植栽

粗摘果は6月中旬より開始

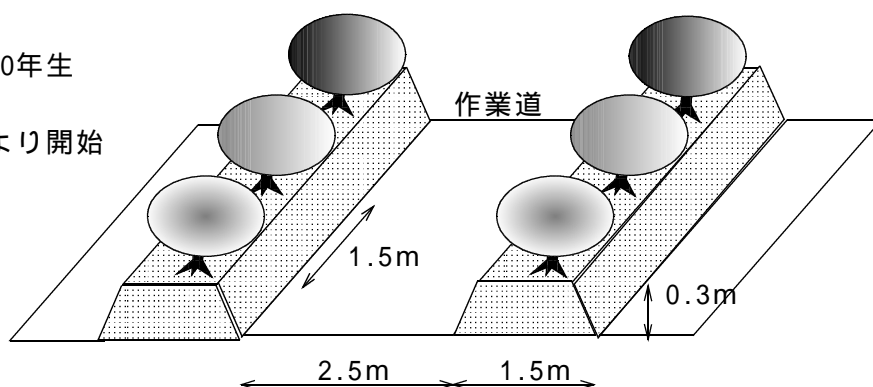


表1 土壌管理の違いと年次別果実品質

処理区	糖 度				酸含量			
	2000	2001	2002	平均	2000	2001	2002	平均
早期マルチ ^z	12.3	12.8	12.6	12.6	0.85	0.96	1.13	0.98
通常マルチ ^y	12.8	13.7	13.2	13.2	0.96	1.01	1.32	1.10
露地	9.4	9.9	10.7	10.0	0.74	0.67	0.96	0.79
有意差 ^x	*	**	**					

^z 梅雨入り前 6月中旬被覆

^y 梅雨明け後 7月下旬～8月上旬被覆

^x 処理区間の差 **：1%、*：5%

表2 土壌管理の違いと年次別収量

処理区	L M S 果の合計比率				収 量			
	2000	2001	2002	平均	2000	2001	2002	平均
早期マルチ ^z	70.0	79.2	77.3	75.5	3,083	2,867	3,633	3,194
通常マルチ ^y	80.0	74.4	64.9	73.1	4,017	3,400	4,317	3,911
露地	54.0	68.0	62.3	61.4	4,633	3,633	4,800	4,356

^z 梅雨入り前 6月中旬被覆

^y 梅雨明け後 7月下旬～8月上旬被覆

[その他]

研究課題名：温州ミカンの品質保証果実の少資材・低コスト生産体系の確立

予算区分：助成試験（地域基幹）

研究期間：1999～2003年度

研究担当者：山下次郎

発表論文等：